

第 23 回 次世代シンポ世話人会 第 3 回会議議事録 [公開用]

日時：令和 7 年 5 月 30 日（水）12:00～12:50

場所：京都大学医薬系総合研究棟 2F 講義室 A

実行委員：笹野裕介（委員長）、浜田翔平、南條毅、徳川宗史、深谷圭介

世話人：石田寛明、植田浩史、榎窪成祥、大澤昂志、大高遵平、大橋栄作、大類彩、勝山彬、喜屋武龍二、栗原崇人、高山亜紀、澤崎鷹、白井孝宏、田上拓磨、樽井敦、中尾允泰、西山義剛、野地寿治、萩原浩一、松岡慶太郎、三代憲司、安井基博、山田強、山本耕介

欠席：荒江祥永、太田浩一朗、大多和正樹、中山淳

I. 報 告 事 項

1. 資料 1 に基づき前回議事について確認され、修正事項等があれば実行委員に連絡していただくようアナウンスがあった。
2. 資料 2 に基づき、第 23 回次世代シンポの予約参加者人数および演題数が委員長より報告され、特に以下について説明があった。
 - ・学生の参加者が増えたことに加え、初めて開催した座談会の高校生参加者が 55 名加わったこともあり、参加料が無料であった第 18 回を除くと参加者数が最多となった。
 - ・企業や海外からの発表もあり、多くの演題が集まった。
3. 資料 3 に基づき、参加登録時のアンケート結果について笹野委員長から説明があった。

参加登録の動機や、今回初めて実施したシンポジウム宣伝用ポスター配布の効果について、アンケートを通じて情報収集を行った。その結果、多くの参加者がポスターを認識していたことが確認され、一定の宣伝効果があったと考えられる。今後もポスター配布を継続し、第 24 回の実行委員へ引き継ぐ予定である。
4. 資料 4 に基づき、次期実行委員長の南條さんより、第 24 回次世代シンポの準備状況が報告された。
5. 資料 5 に基づき、第 23 回次世代シンポ高校生向け座談会の準備について、以下の説明が南條委員からなされた。
 - ・最初、「薬学と有機化学」について講義形式で概説した後に、8 つのグループで座談会を行う予定であることが説明された。
 - ・明るいイメージの案内ポスターを作成するとともに、実行委員・世話人経験者等が近隣の出身高校等の教員に働きかけることで、55 名の参加者が集まった。教員を通じた働きかけ以外での参加者はおらず、高校への直接的な働きかけが重要である。一方、当初の想定を大きく上回る参加者が集まり、高校生からの強いニーズがあることを認識した。
6. 別添資料に基づき、JISEDAI Symposium Lectureship Award および優秀発表賞の規約、応募要領、および審査委員内規について説明があり、世話人全体で共有した。また、笹野委員長から以下の報告があった。
 - ・JISEDAI Symposium Lectureship Award の受賞資格について、世話人会では年齢条件を 36 歳未満から

38 歳未満に変更することが承認されていた。しかし、その変更には薬学会理事会の承認も必要であることが判明したため、先日改めて理事会の承認を得た。講演奨励費を 10 万円から 13 万円に増加する点についても同様に承認を得た。

・世話人会での議決を踏まえ、JISEDAI Symposium Lectureship Award と優秀発表賞の選考委員の内規を変更した。その変更点のうち、JISEDAI Symposium Lectureship Award については、化学系薬学部会役員会に上程する際にミスにより、以下に記載の改定案の「または次世代シンポ世話人経験者」の部分落として諮ってしまった。再度変更の必要がある。

(現在の内規：(2)次世代シンポ世話人から 1 名、想定していた改訂案：(2)次世代シンポ世話人または世話人経験者から 1 名)

7. 資料 6 に基づき、大多和正樹さん（立教大学理学部）が世話人引退を希望されていること、千成恒さん（北里大学大村智記念研究所）が新世話人希望であることが、笹野委員長から説明された。大多和さんが本会議を欠席されているため、決議は第 4 回世話人会で行うこととした。

II. 協 議 事 項

1. 資料 5 に関連して、来年以降の高校生向け座談会の運営について議論された。
 - ・高校生からのニーズを確認することができた。そのため、最終決定ではないが、次回も高校生向けの企画を行う方針であることが承認された。取りまとめ役は立候補を募ることとなり、期限は 6 月末ごろに設定した。
 - ・前述の通り、参加者を集めるためには、積極的に高校教員等に働きかける必要がある。持続可能性を高めるために、各世話人の出身校やつながりのある高校の情報を Google Form で収集することが南條委員より提案され、承認された。

本協議に関する世話人からのコメント・質問

・本企画はまだ企画段階であるので、数年間やってみて、その後継続するかを検証していく必要がある。また、前実行委員長が座談会を取りまとめるということになると実行委員長の負担が増えてしまうという懸念がある。

・本企画は最初中高生会員にインセンティブをつけることを考えて始めた企画である。しかし、去年は中高生会員に限定し、それが参加者が集まらない一因となった。今後、中高生会員のインセンティブを重視するのか、それとも中高生会員獲得を目指す場にするのか。

⇒今回は、中高生会員の獲得の場と完全に位置付けた。今後その位置づけをきちんと決めていく必要がある。

2. 資料 7 に基づき、JISEDAI Symposium Lectureship Award および優秀発表賞の審査の内規の改定案（以下に記載）について議論され、承認された。

(1) Lectureship Award の書類審査について、実際の運用に即した内規とするため、以下の通り改訂する。

（現在）受賞者は、選考委員による各講演の採点結果をもとにした合議により決定する。

応募者からの提出書類をもとに書類審査を行い、5 件程度を書類審査通過者とし、次世代シンポにおける審査を行う。なお、応募が 5 件以下の場合は、提出書類の記載内容を確認した後に、次世代シンポにおける審査を行う。

（改定案）なお、応募件数が多数（概ね 10 件を超える場合、口頭発表の件数とのバランスを踏まえて

実行委員が判断)である場合は、選考委員による書類審査を実施し、10 件程度を書類審査通過者として次世代シンポにおける審査対象とする。一方、応募件数が少数(概ね 10 件以下)の場合は、実行委員会が応募資格を確認した上で、すべてを次世代シンポにおける審査対象とする。

本協議に関する世話人からの質問

・改定案の「すべて」という表現にすると、応募件数が少数の場合で応募者に重大な瑕疵がある場合に書類審査で落としにくくなるのではないか。

⇒応募件数に幅を持たせているため、重大な瑕疵が生じても対応可能ではないか。「すべて」の文言を変更するかについては、意味が変わらない範囲で今後検討した上で決めたい。

(2) 報告事項 6 に記載の JISEDAI Symposium Lectureship Award、優秀発表賞(共通)審査員について以下の通り改定する。

(現在) 次世代シンポ世話人から 1 名

(改定案) (2 または 4)次世代シンポ世話人または次世代シンポ世話人経験者から 1 名

3. 資料 8 に基づき、次世代シンポ世話人の増員および次世代シンポ実行委員長の選任方法について以下の通り議論された。

(1) 次世代シンポ世話人の増員について

近年、次世代シンポ実行委員の負担が増えているため、第 23 回次世代シンポでは実行委員を 1 名増員し 5 名体制とした。現状の 30 名程度の世話人では次世代シンポの運営が 5 年で 1 周してしまうため、異動等による世話人の入れ替えも考えると非常に心もとない。また、地方間の世話人の人数の不均衡が顕在化していることもあり、地方や大学間のバランスを考えながら世話人を増員したいという旨の提案が笹野委員長からなされ、承認された。

本協議に関する世話人からのコメント・質問

・具体的にどれくらいの人数まで最終的に増やすべきなのか? 各大学から 1 名と考えると 50~60 名程度が上限なのではないでしょうか。

・交代ではなく単独で増やすとなると、誰をどのような基準で新しい世話人を選んでいくのか?

⇒選び方については今後考えていく。

(2) 実行委員長の選任方法について

第 18 回の実行委員長選定から立候補制を導入した。しかし、最近では立候補者がいない年もあり、制度が適切に機能しているとは言い難い。そのため、次期実行委員長の候補者については、第 17 回以前の前実行委員長の推薦によって決定する方針としたい、と笹野委員長により提案され、承認された。

III. 連 絡 事 項

1. 資料 9 に基づき、第 4 回世話人会について説明があった。